

編集後記

この3月末で大学を定年退任するため、『整形・災害外科』編集主幹からも退かせていただきます。小生が本誌の編集者に加えていただいたのは2002年からで、早15年の歳月が流れました。当時書かせていただいた最初の編集後記には、「昨年は新世紀の始まりの年にふさわしく？大きな出来事（9.11事件、アフガン戦争等）が次々と発生しました。紛争や戦争の原因、形態も二十世紀とは様相を変え、宗教、民族対立がより深刻化しているように思えます。」と書いておりますが、15年経過しても変わりはないようです。また、「新しい世紀になってパラダイムシフトという言葉がよく聞かれます。科学万能からその反省、自然回帰志向、医療においてはパターンリズムからパートナーリズムへの変換などはその代表的なことでしょう。ES細胞、クローン技術などに代表される医学の進歩も、一步間違えると時代の底流とは矛盾するものになるのではないかと危惧致します。研究者には目先の競争や利益でなく広い視野に立った見識が求められていると思います。」などと偉そうなことを書いていますが、その後iPS細胞で山中伸弥先生のノーベル賞受賞とその研究の発展という大きな期待を持てた一方、STAP細胞事件、臨床研究不正事件と利益相反問題等極めて不快な出来事もありました。我々医師は一層の強い倫理観を持つ必要があると感じます。

退任後しばらく日本の田舎を訪ねたくて、最近柳宗悦氏の『民芸とは』や『手仕事の日本』等を読み直しましたが、その底流に流れるものは、一人の人間のできることは限られている、長い伝統が自然に伝えられて外から見ると素晴らしい成果ができています、華美な

装飾の技法でなく必要に応じた形を熟練の手で作られているから美が生じる等等。そこに宿る民藝美の内容を、柳は「無心の美」、「自然の美」、「健康の美」とであると説明しています。これは、全く我々の世界、外科医の世界に通じるのではと感じているところで

す。当時研修医の過労死問題があり、その話題で「あえて反論覚悟で正直な気持ちを述べさせていただくと、やはり研修医はおろか医者自体が労働者という枠組みにはなじまないと感じています。一つには、医者は高給であろうが薄給であろうがほとんどボランティア精神を基本に動いていること、二つ目は一生が勉強であり医師国家試験を通れば決まった能力と対価を得られる存在ではないこと、がその理由であります。」と。この考えは今も変わっておりませんし、若い医師が一人でも多く同感してくれることを願っています。

本号の特集は「椎間板変性の病態と治療」です。期せずして、2002年の特集は「脊椎の痛み」が特集で、「関節疾患と異なり脊椎関連の痛みはその原因を明確にできず治療にも難渋することが多いのではないかと推察致します。3D-MRIによる詳細な画像診断、SSRIによる慢性疼痛の治療、PCAによる術後疼痛管理等新しい手段をこの特集は我々に提供してくれています。」と編集後記で書きました。脊索の遺残である髄核も含め基礎研究が随分進化したという感慨とともに、臨床でのフィードバックに繋がることを期待致します。

15年間有難うございました。

（飯田寛和）

「整形・災害外科」第60巻 第3号（3月号） 2017年3月1日発行（毎月1回1日発行） 定価（本体2,500円＋税） 年間購読料金 定価（本体39,400円＋税） 〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03 (3811) 7165〔編集室直通〕 TEL 03 (3811) 7184〔営業部直通〕 FAX 03 (3813) 0288 http://www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 福田商店 TEL 06 (6941) 5600
--	---

・本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権を含む）は金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <（社）出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、（社）出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969、FAX 03-3513-6979、e-mail:info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。